

第199回 (20/Ⅳ期)

群馬県内企業経営動向調査

(ビジネス・サーベイ)

群馬経済研究所研究員 三田正広

◆調査概要

～業況判断DIは新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、
8期ぶりのプラスとなる～

- 2020年10～12月期の県内企業の業況判断DIは3.1と、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、8期ぶりのプラスとなった。
- 内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIが「増加」超に転じたものの、採算DIは依然「悪化」超であり、設備投資DIでも「減少」超が続いた。また、原材料（仕入）価格DIが2期連続の「上昇」超となり、人員判断DIも2期続けて「不足」超となった。
- 業種別に業況判断DIをみると、製造業が10.8、非製造業が△2.9となり、7業種で「好転」超（10頁）。製造業では、海外需要が増加している輸送機器など6業種で「好転」超となり、全体としても5期ぶりの「好転」超に転じた。非製造業では、乗用車販売が回復しつつある小売業で「好転」超となった一方、卸売業など3業種で「悪化」超が続き、全体としても「悪化」超が続いた。
- 経営上の問題点では、引き続き「売上・受注の停滞、減少」が「求人難」を上回り最多となった（15頁）。
- 2021年1～3月期の業況判断DIは△8.2と、再び「悪化」超に転じる見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
18・7～9	2.9	4.1	1.3	27.4	△ 1.1	1.5	4.6	△13.5	△40.8
10～12	4.6	8.1	3.5	30.0	△ 3.0	1.7	0.7	△11.8	△37.1
19・1～3	△ 7.6	△11.4	1.4	25.2	△11.6	△ 1.5	△ 3.2	△ 8.7	△40.4
4～6	△ 1.4	△ 4.4	3.1	23.4	△ 6.9	△ 4.5	2.3	△14.3	△34.0
7～9	△ 0.7	△ 0.9	0.0	14.6	△ 3.7	△ 1.6	△ 0.3	△10.1	△39.7
10～12	△ 6.6	△ 8.1	1.2	18.0	△ 9.7	△ 0.5	△ 0.3	△13.5	△36.5
20・1～3	△17.7	△19.9	△ 0.7	14.0	△19.2	△ 5.4	△ 1.6	△ 9.6	△32.2
4～6	△54.8	△57.5	△13.2	△ 2.8	△51.2	△24.3	△11.7	△18.7	2.6
7～9	△15.4	△15.1	△ 4.6	8.0	△18.8	△13.4	0.6	△ 9.2	△11.3
10～12	3.1	2.5	△ 2.1	10.9	△ 5.5	△ 7.1	1.8	△ 5.5	△17.6
(前 期 比)	(18.5)	(17.6)	(2.5)	(2.9)	(13.3)	(6.3)	(1.2)	(3.7)	(△ 6.3)
(前回予測比)	(11.1)	(12.2)	(1.2)	(4.7)	(9.3)	(6.3)	(5.6)	(△ 1.3)	(△ 2.3)
21・1～3見通し	△ 8.2	△ 8.4	△ 3.3	7.6	△12.9	△10.5	△ 3.6	△ 5.2	△15.3
(前 期 比)	(△11.3)	(△10.9)	(△ 1.2)	(△ 3.3)	(△ 7.4)	(△ 3.4)	(△ 5.4)	(0.3)	(2.3)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1039社

回答社数492社（回答率47.4%）うち製造業213社 非製造業279社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2020年11月上旬～12月上旬

5. 調査対象期間

2020年10～12月期実績、2021年1～3月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	213	43.3	207	91	87	35
食 料 品	27	5.5	27	13	9	5
織 維	12	2.4	12	3	8	1
木 材 木 製 品	10	2.0	10	4	3	3
窯 業 土 石	8	1.6	8	3	2	3
電 気 機 器	18	3.7	18	5	9	4
輸 送 機 器	24	4.9	22	10	12	2
金 属 製 品	37	7.5	37	15	19	3
一 般 機 械	20	4.1	19	11	7	2
そ の 他	57	11.6	54	27	18	12
非 製 造 業	279	56.7	270	167	68	44
卸 売 業	63	12.8	61	46	13	4
小 売 業	41	8.3	40	29	8	4
建 設 業	80	16.3	76	42	20	18
サ ー ビ ス 業	95	19.3	93	50	27	18
合 計	492	100.0	477	258	155	79

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

■本文中にあるDIについて

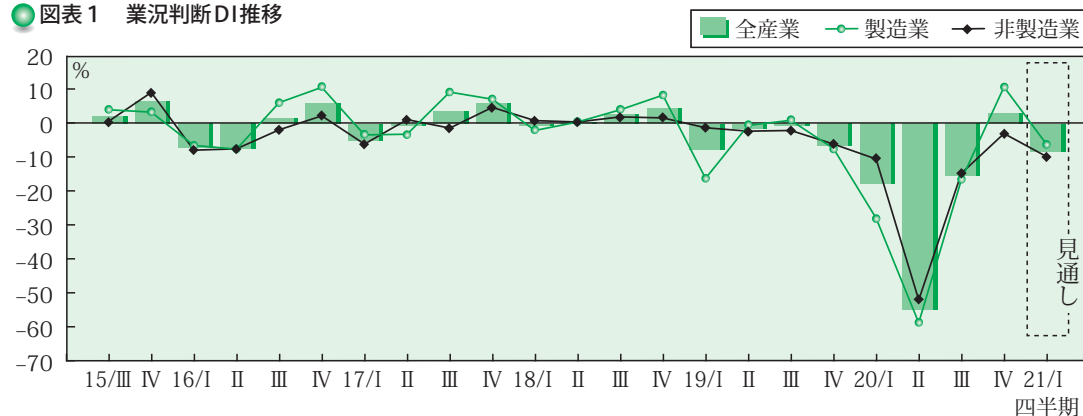
DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、8期ぶりのプラスとなる～

●図表1 業況判断DI推移



	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
好転	16.5	(15.0)	20.6	11.6
変わらず	51.6	(62.0)	61.9	68.6
悪化	31.9	(23.0)	17.5	19.8
全産業DI	△15.4	(△8.0)	3.1	△8.2

製造業DI	△16.5	(△4.9)	10.8	△6.1
食料品	29.6	(11.1)	23.1	0.0
繊維	△61.5	(△30.8)	△58.4	△16.7
木材木製品	△20.0	(△20.0)	△20.0	△20.0
窯業土石	△46.7	(0.0)	37.5	0.0
電気機器	△15.7	(△5.3)	27.7	11.1
輸送機器	43.5	(26.1)	50.0	0.0
金属製品	△55.2	(△13.8)	18.9	0.0
一般機械	△16.7	(△16.7)	△10.0	△15.0
その他	△25.0	(△9.6)	1.7	△14.0
非製造業DI	△14.6	(△10.2)	△2.9	△9.7
卸売業	△23.9	(△3.0)	△12.7	△12.7
小売業	△10.3	(△15.3)	9.7	7.3
建設業	△9.1	(△13.0)	△1.2	△15.0
サービス	△14.4	(△11.1)	△3.2	△10.5

【20年10～12月期】

○全産業

新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、全体のDIは3.1と、8期ぶりのプラス。7業種で「好転」超となった。前回予測の△8.0からも良化した。

○製造業

海外需要が増加している輸送機器では大幅な「好転」超が続いた。6業種が「好転」超となり、製造業全体のDIは10.8と5期ぶりの「好転」超。

○非製造業

新型車投入により売上が回復しつつある乗用車販売などの小売業が「好転」超に転じた。しかし、3業種が引き続き「悪化」超となり、非製造業全体のDIは△2.9と、8期連続の「悪化」超。

【21年1～3月期（見通し）】

○全産業

DIは△8.2と再び「悪化」超に転じる見通し。

○製造業

4業種が「好転」超から横ばいとなることから、製造業全体では「悪化」超に転じる見通し。

○非製造業

非製造業全体では「悪化」超が続く見通し。

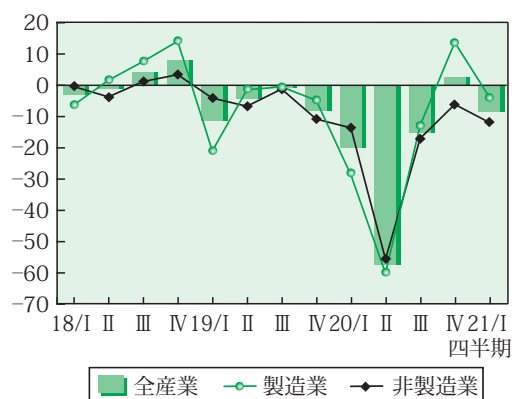
2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～8期ぶりの「増加」超～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
増 加	19.2	(17.5)	25.6	14.3
横ばい	46.5	(55.3)	51.3	63.0
減 少	34.3	(27.2)	23.1	22.7
全産業DI	△15.1	(△9.7)	2.5	△8.4
製造業DI	△12.8	(△3.9)	13.7	△3.8
食料品	25.9	(22.2)	18.5	0.0
繊維	△58.4	(△41.7)	△58.4	△25.0
木材木製品	△10.0	(△30.0)	△10.0	△20.0
窯業土石	△50.0	(7.2)	37.5	0.0
電気機器	△16.7	(△5.5)	22.2	11.1
輸送機器	34.8	(26.1)	58.3	△4.2
金属製品	△51.8	(△10.4)	29.7	5.4
一般機械	0.0	(△22.2)	△10.0	△5.0
その他	△15.4	(△9.6)	3.6	△8.9
非製造業DI	△17.0	(△14.0)	△6.1	△11.9
卸売業	△28.0	(△13.2)	△19.0	△17.4
小売業	△15.4	(△15.3)	0.0	2.5
建設業	△6.7	(△13.3)	△2.5	△13.7
サービス	△17.8	(△14.5)	△3.2	△12.9

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

生産の回復により輸送機器が大幅な「増加」超となり、製造業全体でも8期ぶりの「増加」超となった。

○非製造業

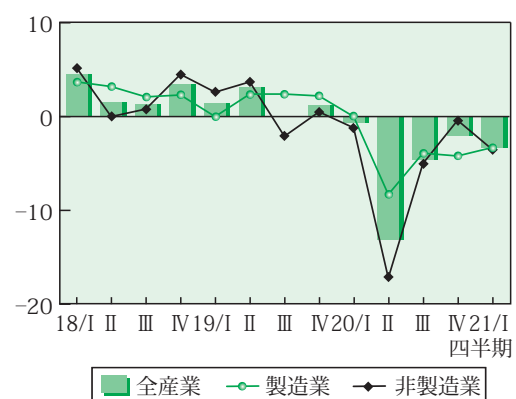
乗用車販売が回復した小売業以外では「減少」超が続き、非製造業全体でも8期連続の「減少」超となった。

(2)製商品(販売)価格

～横ばいが約9割を占める～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
上 昇	3.4	(4.5)	5.1	3.2
横ばい	88.6	(87.7)	87.7	90.3
低 下	8.0	(7.8)	7.2	6.5
全産業DI	△4.6	(△3.3)	△2.1	△3.3
製造業DI	△3.9	(△2.9)	△4.2	△3.3
食料品	0.0	(7.4)	3.7	0.0
繊維	△33.3	(△25.0)	△16.7	△16.7
木材木製品	△10.0	(△20.0)	0.0	0.0
窯業土石	0.0	(0.0)	0.0	0.0
電気機器	0.0	(0.0)	0.0	△5.6
輸送機器	0.0	(△4.3)	△4.2	△4.2
金属製品	0.0	(△3.5)	△8.1	△5.4
一般機械	△5.6	(0.0)	△5.0	△5.0
その他	△3.9	(△2.0)	△5.5	0.0
非製造業DI	△5.0	(△3.4)	△0.4	△3.5
卸売業	△7.4	(0.0)	△3.2	△1.5
小売業	5.1	(0.0)	2.5	△2.5
建設業	△5.4	(△5.4)	△1.3	△9.1
サービス	△7.3	(△6.1)	1.2	0.0

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

食料品のみ「上昇」超となり、他の8業種では「低下」超または横ばいとなった。

○非製造業

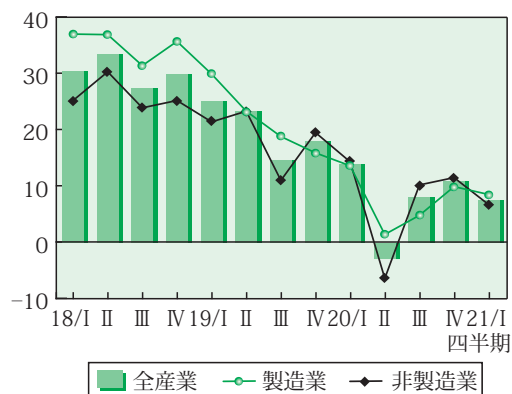
サービス業が「上昇」超に転じたものの、非製造業全体では小幅ながら「低下」超が続いた。

(3)原材料（仕入）価格

～2期連続の「上昇」超～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
上 昇	12.9	(10.1)	14.9	10.3
横ばい	82.2	(86.0)	81.1	87.0
低 下	4.9	(3.9)	4.0	2.7
全産業DI	8.0	(6.2)	10.9	7.6
製造業DI	4.9	(4.4)	10.0	8.6
食料品	25.9	(11.1)	14.8	14.8
繊維	0.0	(△16.7)	8.3	8.3
木材木製品	△10.0	(△10.0)	20.0	30.0
窯業土石	7.1	(0.0)	0.0	0.0
電気機器	5.6	(0.0)	11.1	5.6
輸送機器	4.4	(4.4)	16.7	8.3
金属製品	6.9	(17.2)	13.5	10.8
一般機械	△5.6	(11.1)	0.0	0.0
その他	0.0	(1.9)	5.5	5.5
非製造業DI	10.3	(7.6)	11.6	6.8
卸売業	4.4	(8.9)	17.5	7.9
小売業	10.2	(5.1)	10.0	2.5
建設業	14.7	(13.4)	14.1	9.0
サービス	11.0	(2.4)	5.8	5.8

● 図表 2-3 原材料(仕入)価格DI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

木材木製品や輸送機器など7業種で「上昇」超となり、製造業全体のDIも引き続き「上昇」超となった。

○非製造業

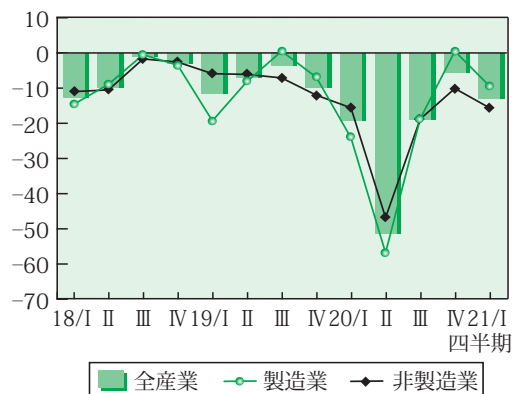
全4業種で「上昇」超となり、非製造業全体のDIも2期連続で「上昇」超となった。

(4)採 算

～「悪化」超幅が縮小～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
好 転	11.8	(9.5)	15.2	7.8
変わらず	57.6	(66.2)	64.1	71.5
悪 化	30.6	(24.3)	20.7	20.7
全産業DI	△18.8	(△14.8)	△5.5	△12.9
製造業DI	△18.7	(△12.8)	0.5	△9.4
食料品	0.0	(△7.4)	0.0	△7.4
繊維	△66.7	(△50.0)	△75.0	△50.0
木材木製品	△10.0	(△20.0)	△20.0	△20.0
窯業土石	△42.9	(7.1)	37.5	12.5
電気機器	△11.1	(△5.6)	22.2	5.6
輸送機器	34.8	(8.7)	41.6	4.2
金属製品	△38.0	(△27.6)	2.7	△13.5
一般機械	△11.1	(△16.7)	△20.0	△15.0
その他	△30.8	(△13.5)	△3.6	△9.0
非製造業DI	△18.8	(△16.2)	△10.1	△15.6
卸売業	△20.9	(△15.0)	△15.9	△12.7
小売業	△15.4	(△12.8)	2.4	△4.9
建設業	△16.9	(△16.9)	△16.3	△22.5
サービス	△20.5	(△18.1)	△6.5	△16.4

● 図表 2-4 採算DI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

輸送機器などが「好転」超となり、製造業全体でも大幅な「悪化」超から僅かな「好転」超に転じた。

○非製造業

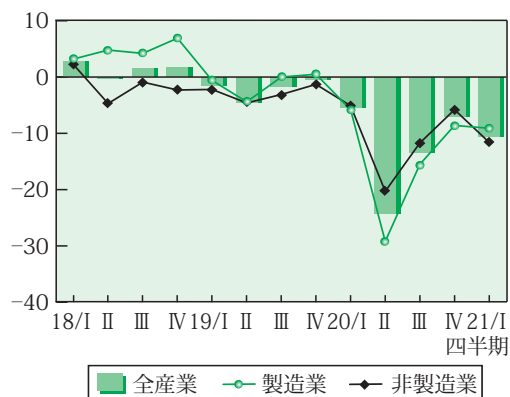
乗用車販売の回復により小売業で「好転」超となり、非製造業全体のDIは「悪化」超もマイナス幅は縮小した。

(5)設備投資

～持ち直しているものの、
「減少」超が続く～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
増 加	11.6	(8.0)	12.4	9.0
横ばい	63.4	(70.6)	68.1	71.5
減 少	25.0	(21.4)	19.5	19.5
全産業DI	△13.4	(△13.4)	△7.1	△10.5
製造業DI	△15.5	(△16.1)	△8.6	△9.1
食料品	△3.7	(△18.5)	△18.5	△11.1
繊維	△41.7	(△33.3)	△33.3	△44.4
木材木製品	△10.0	(△20.0)	△30.0	△40.0
窯業土石	△14.3	(△7.2)	0.0	0.0
電気機器	△17.6	(△11.7)	0.0	△5.9
輸送機器	△13.7	(△13.7)	△8.3	△16.7
金属製品	△14.3	(△10.7)	△2.7	△5.4
一般機械	5.6	(△5.6)	△10.0	0.0
その他	△25.5	(△21.6)	△3.5	△1.7
非製造業DI	△11.7	(△11.3)	△5.8	△11.6
卸売業	△28.3	(△25.0)	△14.0	△14.0
小売業	0.0	(△19.4)	7.5	2.5
建設業	△5.6	(△7.1)	△5.2	△18.0
サービス	△9.8	(△1.2)	△7.1	△10.7

図表2-5 設備投資DI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

製造業全体では引き続き「減少」超。製造業全体の設備投資目的としては、老朽化対応、合理化・省力化が中心であった。

○非製造業

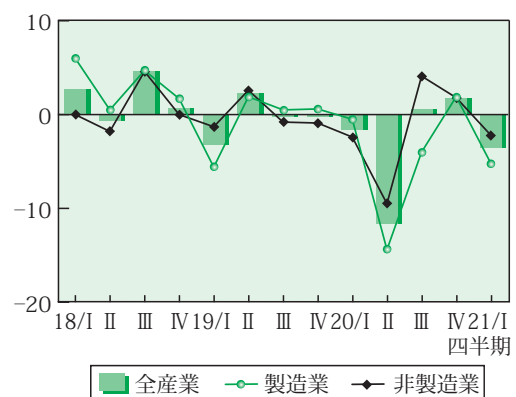
卸売業など3業種で「減少」超。非製造業全体の設備投資目的では老朽化対応や販売能力向上が目立った。

(6)資金繰り

～ほぼ横ばいで推移～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10-12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
余 裕	11.5	(8.1)	13.2	10.7
普 通	77.6	(80.0)	75.4	75.0
窮 屈	10.9	(11.9)	11.4	14.3
全産業DI	0.6	(△3.8)	1.8	△3.6
製造業DI	△4.0	(△6.0)	1.9	△5.2
食料品	7.4	(3.7)	3.9	△7.7
繊維	△25.0	(△41.7)	△45.5	△63.6
木材木製品	0.0	(0.0)	0.0	△10.0
窯業土石	△7.2	(△7.2)	0.0	△12.5
電気機器	15.8	(15.8)	16.7	5.5
輸送機器	△9.1	(△4.6)	△4.2	△12.5
金属製品	△17.3	(△13.8)	△8.3	△11.1
一般機械	0.0	(0.0)	10.0	10.0
その他	△3.9	(△9.6)	12.2	7.0
非製造業DI	4.1	(△2.2)	1.8	△2.2
卸売業	7.4	(5.9)	△3.2	△1.6
小売業	8.1	(0.0)	17.1	2.4
建設業	11.7	(1.3)	7.7	3.8
サービス	△7.0	(△12.8)	△6.5	△9.8

図表2-6 資金繰りDI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

電気機器や一般機械などが「余裕」超となり、製造業全体でも小幅ながら「余裕」超に転じた。

○非製造業

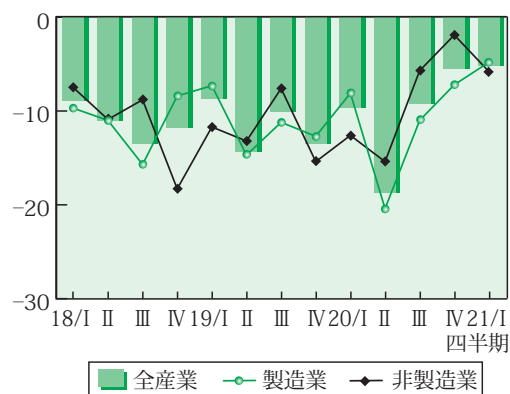
卸売業が「窮屈」超に転じるも、小売業で「余裕」超幅が拡大し、非製造業全体では「余裕」超が続いた。

(7)在庫水準

～2期連続で「過剰」超幅が縮小～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10～12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
不足	6.9	(5.6)	8.3	6.7
適正	77.0	(84.6)	77.9	81.4
過剰	16.1	(9.8)	13.8	11.9
全産業DI	△9.2	(△4.2)	△5.5	△5.2
製造業DI	△11.0	(△4.5)	△7.2	△4.8
食料品	△11.1	(△3.7)	△14.8	△11.1
繊維	8.3	(0.0)	△10.0	△10.0
木材木製品	△10.0	(△10.0)	0.0	10.0
窯業土石	△15.4	(△7.7)	0.0	0.0
電気機器	0.0	(5.6)	0.0	0.0
輸送機器	△18.2	(△4.6)	△20.8	△8.3
金属製品	△10.3	(△3.4)	2.8	2.8
一般機械	0.0	(11.8)	0.0	0.0
その他	△19.3	(△13.5)	△10.9	△10.9
非製造業DI	△5.7	(△3.8)	△1.9	△5.8
卸売業	△10.4	(△5.9)	△4.8	△9.5
小売業	2.6	(0.0)	2.4	0.0
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

● 図表2-7 在庫水準DI推移(21/Ⅰは見通し)



注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【20年10～12月期】

○製造業

輸送機器や食料品など4業種で「過剰」超となるも、製造業全体の「過剰」超幅は縮小した。

○非製造業

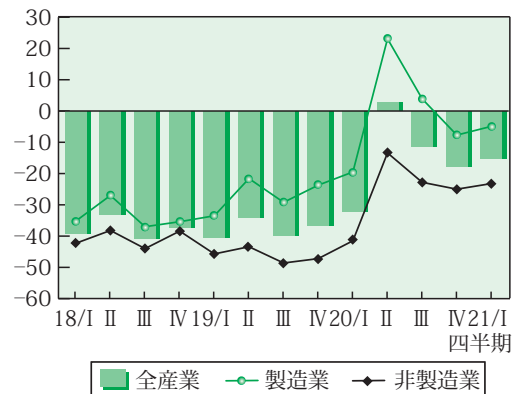
小売業は「不足」超ながら、卸売業では「過剰」超が続き、非製造業全体でも「過剰」超となった。

(8)人 員

～2期連続の「不足」超、
「不足」超幅は拡大～

	20/Ⅲ 実績	20/Ⅳ(10～12月)		21/Ⅰ 見通し
		前回予測	実績	
過剰	12.4	(9.6)	10.3	11.4
適正	63.9	(65.5)	61.8	61.9
不足	23.7	(24.9)	27.9	26.7
全産業DI	△11.3	(△15.3)	△17.6	△15.3
製造業DI	3.9	(△3.9)	△7.7	△4.9
食料品	△11.1	(△18.5)	0.0	3.9
繊維	25.0	(25.0)	9.1	9.1
木材木製品	0.0	(0.0)	△22.2	△22.2
窯業土石	△28.6	(△28.6)	△50.0	△50.0
電気機器	5.3	(0.0)	0.0	△5.6
輸送機器	13.6	(4.5)	△8.3	4.1
金属製品	13.8	(0.0)	0.0	5.7
一般機械	△5.9	(△5.9)	△20.0	△20.0
その他	9.6	(△3.8)	△8.8	△7.0
非製造業DI	△22.8	(△24.0)	△25.0	△23.2
卸売業	△11.7	(△11.8)	△4.8	△6.4
小売業	△5.4	(△13.5)	△12.2	△4.9
建設業	△49.3	(△49.3)	△55.7	△53.2
サービス	△15.3	(△15.3)	△18.3	△17.2

● 図表2-8 人員DI推移(21/Ⅰは見通し)



【20年10～12月期】

○製造業

輸送機器が「不足」超に転じたことなどにより、製造業全体でも3期ぶりの「不足」超に転じた。

○非製造業

人手不足感が続く建設業では5割超が「不足」と回答し、非製造業全体でも大幅な「不足」超となった。

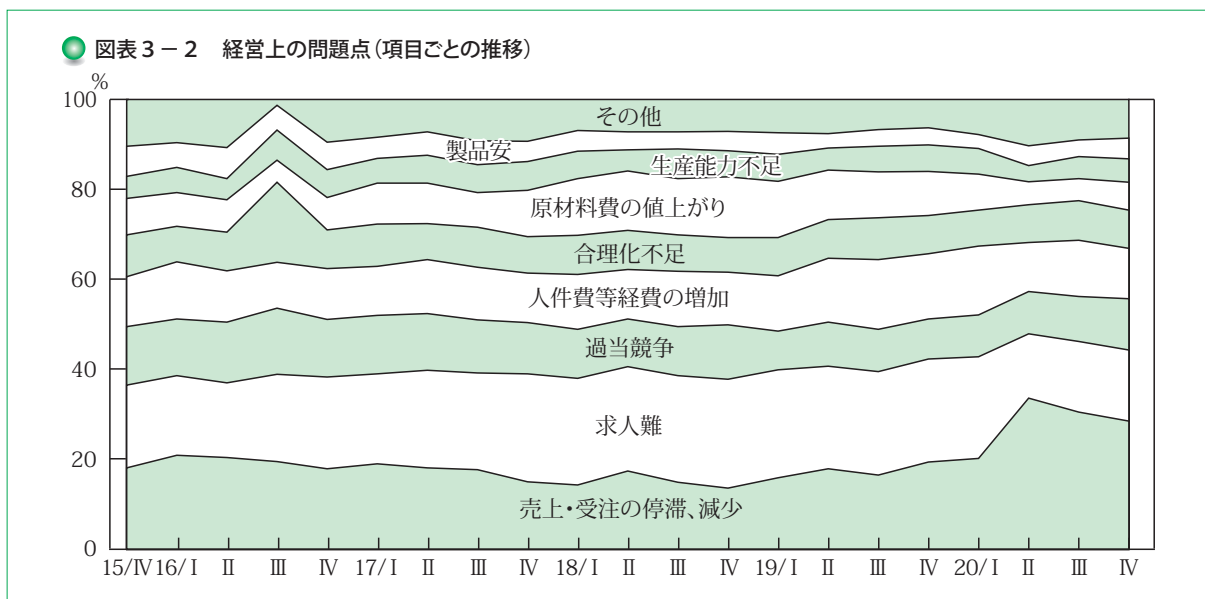
3. 経営上の問題点

～「売上・受注の停滞、減少」が引き続き最多となった～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：％)

項目	20年 7～9月期	20年 10～12月期	前期比増減	回答の多い業種
売上・受注の停滞、減少	64.4	60.4	△4.0	繊維、卸売業、木材木製品
求人難	33.2	33.6	0.4	窯業土石、建設業、輸送機器
過当競争	21.0	24.3	3.3	窯業土石、卸売業、繊維
人件費等経費の増加	26.5	23.8	△2.7	小売業、食料品、サービス業
合理化不足	18.7	18.1	△0.6	輸送機器、食料品、サービス業
原材料費の値上がり	10.4	13.2	2.8	食料品、木材木製品、卸売業
生産能力不足	10.4	11.1	0.7	電気機器、木材木製品、輸送機器



経営上の問題点をみると、1位「売上・受注の停滞、減少」、2位「求人難」、3位「過当競争」の順となった。引き続き「売上・受注の停滞、減少」が「求人難」を大きく上回り最多となった。

回答の多い業種は、「売上・受注の停滞、減少」では繊維、卸売業、木材木製品など、「求人難」では窯業土石、建設業、輸送機器など、「過当競争」では窯業土石、卸売業、繊維などとなった。